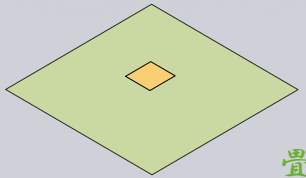


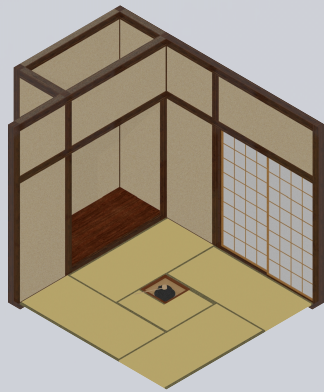
名付ける手法「畳目」

茶道で使われる畳空間における手法を名付ける。茶道として使われていた畳空間には、くり貫かれた枠組みがある。畳空間において、この枠組は特別な存在であると言える。例えば、この特別な枠組みに置炉を置くことで、茶道という和が確立させる。つまり、この特別な枠組みが畳空間を構成する重要な役割であり、特別な和を生み出す手法である。

特別な枠組み



畳



消灯



点灯

「畳目」の点灯

「畳目」を活用した【畳の光目】では、置炉の形のした照明がある。置炉のような照明が、明かりを点灯させる。場所に応じて、置炉のような照明は、付属している柄杓を動かして使うことで、照明が点灯する。よって、茶道の所作を体験でき、身近に伝統を感じることができる。つまり、和を体験できる照明である。。

